

学校司書の社会的地位の向上をめざして

※様々な勤務条件とできることできないことをまとめてみました。

●三鷹市(約9年勤務)

週 29 時間(月～金 9:30～15:30、土曜地域開放 8:30～12:30)、市の嘱託職員
更新年限ありのため、育休が取れず9年目で退職

- ・全クラスの図書の時間に関わっていたが、クラス数が増え、関われないクラスも
- ・必要に応じて、職員会議や学年会などにも参加できた
- ・休み時間・放課後などに子どもたち一人ひとりとのかわりがしっかりできた

●某国立大学附属中学校(1年勤務)

週 24 時間(月火木金 9:30～16:30)大学の非常勤職員(最長3年まで)
産育休なしのため1年で退職

- ・ほぼ昼休みと放課後のみで授業利用はほとんどなし。

●東村山市(9年勤務)

週 20 時間(月火木金 9:30～15:30)市の臨時職員→会計年度任用職員アシスタント職
2校兼務(小学校1校+学校支援担当を各週2日ずつ)

- ・関われるクラス数が限られる。年1回のオリエンテーションだけは時間調整して全クラス実施
- ・委員会活動は参加できず。
- ・職員室に机・パソコンなどもなく、連絡箱のみ置いてもらった。
- ・予約サービスができないため、必要な人に必要な本を届けることができなかった。
- ・職員とも、子どもたち一人ひとりとも信頼関係の構築がしづらい。(お客さん扱い)

●東京学芸大学附属竹早小学校(現任校4年目)

週 24 時間(火～金 9:30～16:30)大学の非常勤職員

- ・全クラスの図書の時間と関われる。
- ・「未来の学校みんなて創ろう。プロジェクト」での校内研究活動に参加。
- ・東京学芸大学「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」の運営専門委員会に参加。

●東京学芸大学附属特別支援学校(現任兼務で5年目)

月 2 回程度(1回5時間)研究費からの講師派遣扱い

- ・幼稚園から高等部まで各部の図書コーナー整備にも不十分な勤務時間
- ・附属学校の司書部会に属していることで足りない資料を集めることはできる。

	週5 小学校	週4 中学校	週2 小学校	週4 小学校	月2 特別支援学校
図書の時間へのかかわり	○→△	なし	1/3程度	○	なし
その他の授業支援	○	△(×)	△(資料のみ)	○	△
図書委員会へのかかわり	○	△	×	なし	△→×
予約サービスの有無	○	○	×	○	×
休み時間の開館	○	○	△	○	×
会議への参加	△	×	×	△	×
校内研究への参加	△	×	×	△	×
環境整備	○	○	△	○	×
職員室の席	○	×	×	×	×
研修	△	×	○	○	△

●いずれの条件にしろ、非正規で一年ずつ更新する雇用としての不安定さがあり、仕事の長期的な展望、継続性には欠ける。また、正式には校務分掌なども持たない身分のため、教員集団の一員ではない一人職種のやりにくさはある。求められている仕事の専門性・多様性と待遇の悪さのアンバランスを感じている。学校司書として働きたい若者がきちんと一人前に働けるような職になってほしい。